

# 耳川にアユ産卵床

九電事務所と漁協造成

## ダム堆積の石有効活用

29.10.30 宮日



耳川で川床の石をならし、アユの産卵床を造成する参加者

九州電力耳川水力整備事務所(柏木雄二所長)は耳川漁協(都甲哲郎組合長)と合同で23日、ダムに堆積した土砂

から採取した石を利用して日向市東郷町の耳川にアユ産卵床を造成した。大量にある石を活用する一方、ダムから下

流に土砂や石を供給し、水環境の改善にもつながるとされる将来の「通砂運用」の効果も見るといふ。11月末まで造

成付近を禁漁区とし、産卵状況など経過を観察する。

造成には22人が参加し、福瀬大橋近くの2カ所で作業。

同事務所が上流の山須原ダム(諸塚村)貯水池の河床を掘削し泥土を洗い落とし、産卵に適する空間をつくとされ、5リットル4センチほどの大量の石を選別。参加者は重機で水深10〜20センチの川底に石を流し入れ、くわを使って適度にならし、現場にある大きめの石を取り除いていった。

同ダムでは台風など急激な大規模出水に伴う上流域の浸水リスクに備え、下流域に砂や石を流す「通砂運用」へ貯水位を低くする改造工事が進む。同事務所によると、下流域へ石を供給する今回の産卵床造成はダムにたまった大量の石を有効活用するのに加え、運用の模範実験やシミュレーションで示された河原

の洗浄促進による生態系・水域環境への影響と健全化の効果予測も兼ねているといふ。

同組合は産卵床を結ぶ約100メートルを禁漁区間に設定、産卵が進むよう維持管理する。都甲組合長(75)は「常時産卵ができる場所を造る意義は大きい。産卵状況の改善に期待している」と話していた。